

「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW

International University of Health and Welfare

vol. **70**
July 2007

第12回 運動会

平成19年度 入学式
国際医療福祉大学

小田原キャンパスレポート
大川キャンパスレポート





1：入場行進 2：学科のためなら、先生も走ります。3：一致団結、「栄光の架け橋」を渡りきるぞ〜！4：息を合わせ、3分間飛び続ける「3分間ジャンプ」。飛ぶのも、縄を回すのも大変。

5月26日(土)、大田原本校のグラウンドにおいて第12回運動会が行われた。前日の大雨の影響でグラウンドでの開催が心配されたが、朝には雨もすっかりあがり、五月晴れの良い天気にも恵まれた。

第12回運動会

例年、大田原本校にある9学科の対抗戦で行われる運動会に、今年初の試みとして小田原保健医療学部から精鋭1チームが参加する予定で準備が進められていた。しかし、小田原における麻疹流行の影響で、やむなく断念となり、例年通り9学科対抗で行われた。馬とびの要領で腰をかがめた仲間の背中を渡り、ゴールへと向かう「栄光の架け橋」や一心不乱でかごに向け、玉を投げ入れる「私の想いをウケテメテ」など、ユニークなネーミングの競技に参加した学生たちは一致団結し、優勝めざして奮闘した。運動会最後の種目、学科対抗リレーで盛り上がりは最高潮に。全競技終了後、閉会式が行われ、今年度の優勝の栄冠には作業療法学科が輝いた。実行委員長からの「皆さんのおかげで無事に運動会をやり遂げることができました」との挨拶のあと、三本締めで運動会は幕を閉じた。

学科対抗リレー。作業療法学科がトップでゴール！



学科の個性が光る「応援合戦」

お昼休みを使って行われた「応援合戦」では、各学科が趣向を凝らした衣装をまとい、流行の曲に合わせてダンスしたり、パフォーマンスを繰り広げたりと練習の成果を披露した。「応援合戦」の結果は、揃いのはっぴを身にまとい「よさこいソーラン節」を演舞した看護学科が今年度の1位となった。写真右上：「よさこいソーラン節」を披露する看護学科。写真左：理学療法学科は毎年恒例の衣装？で。写真右下：練習の成果を発揮する瞬間。

■今年度の結果■

- | | |
|--------------|------------|
| 1位 作業療法学科 | 5位 医療福祉学科 |
| 2位 医療経営管理学科 | 6位 視機能療法学科 |
| 3位 理学療法学科 | 7位 薬学科 |
| 4位 放射線・情報科学科 | 8位 言語聴覚学科 |
| | 9位 看護学科 |

ユニフォームコレクション

学科ごとに、おそろいのTシャツやポロシャツを作りました！特長あふれるユニフォームを一部ご紹介します。



2 第12回運動会 大田原本校

4 平成19年度入学式

大田原本校／小田原保健医療学部／福岡リハビリテーション学部
学長式辞 学長 谷修一
新入学生概要

- 6 新規着任教員紹介
- 8 小田原キャンパスレポート 第4回
学外オリエンテーション／部・サークル活動
- 9 大川キャンパスレポート 第9回
言語聴覚学科長 深浦順一／4校合同大運動会
- 10 研究最前線 第3回
在宅地域ケア研究センター 島内節教授・昇寛准教授

11 Topics & Columns

高木理事長が中国リハビリテーション研究センターを訪問／ISO国際会議／新入生オリエンテーションツアー、カリキュラム改編（保健医療学部看護学科）／DPCセミナー（医療経営管理学科）／イブニングタイム公開講座（視機能療法学科）／初めての総合臨床能力評価（保健医療学部言語聴覚学科）／初期臨床研修医グループ合同オリエンテーション／福岡リハビリテーション学部と大川樟風高校との高大連携講座がスタート／大学院に診療情報アナリスト養成コースを新設／平成18年度卒業生の進路、国家試験受験結果／平成19年度奨学生決定／平成18年度大学決算報告／コラム「サークル紹介」第2回（大田原本校ダンス部）／コラム「私の主張」第5回（国際医療福祉大学病院神経内科 橋本律夫教授）／コラム「私のおすすめ本」第5回（放射線・情報科学科 土屋仁准教授）

17 施設インフォメーション

〈国際医療福祉大学病院〉救急訓練、ふれあい看護体験／〈国際医療福祉大学熱海病院〉看護の日、院内学術懇話会／〈国際医療福祉大学三田病院〉北島病院長ご挨拶／〈グループホーム青山〉新施設がスタート／〈化学療法研究所附属病院〉整形外科の診療体制を強化（整形外科部長 伊藤聡一郎）／〈医療法人社団 高邦会〉シーサイドももち新病院見学会

20 医療福祉チャンネル774／お知らせ

IUHW Note

平成19年度の広報委員会の委員は下記の通りです。
【広報委員長】高橋泰（医療経営管理学科長）
【広報委員】長田泉（看護学科） 重久加代子（看護学科） 潮見泰蔵（理学療法学科） 藤田亘（作業療法学科） 谷合信一（言語聴覚学科） 藤田純子（視機能療法学科） 菊地義信（放射線・情報科学科） 横塚記代（放射線・情報科学科） 丸木一成（医療経営管理学科） 永野なおみ（医療福祉学科） 角南明彦（薬学部） 齋藤智恵（総合教育センター） 田中繁（大学院） 高石和秀（本校総務課） 高橋章子（本校総務課） 村山京三（小田原キャンパス・広報担当） 原田ちはる（九州・広報担当） 山内邦雄（東京事務所出版広報室）

平成十九年度入学式

大田原本校

四月五日（木）、本校那須アスリーナにおいて、平成十九年度学部入学式並びに大学院入学式が執り行われた。コーラス部による校歌斉唱で始まった入学式。会場いっぱい集まった新入生をはじめ、保護者や来賓などの参加者たちは美しい歌声に聞き入っていた。



写真上段・大田原本校入学式
写真下段左・コーラス部による校歌「未来への扉」斉唱/写真下段右・「誓いのこぼし」を述べる大浦あずささん

校歌斉唱後、谷修一学長、開原成允大学院長からの式辞、次いで、大田原市長・千保一夫氏、栃木県知事・福田富一氏（栃木県保健福祉部次長・廣澤敬行氏代読）より来賓代表祝辞が述べられた。続いて、新入生を代表して放射線・情報科学科の大浦あずささんが「多くの人の支えとなり、医療福祉分野で活躍できるようにになりたい」、大学院新入生代表の植松朋子さんが「知識だけでなく、思いやりなども大切にできる幅の広い医療福祉人をめざします」と「誓いの言葉」を語り、学部新入生九八六名、大学院新入生二二九名はこれから大学生活への決意を新たにしました。最後に、谷学長より各学部長、学科長の紹介があり、式は幕を閉じた。

晴天に恵まれた今年度の入学式では、例年より早くキャンパスを彩った桜を背景に写真を撮る新入生たちの姿が多く見受けられた。
（東京事務所 出版広報室）

学長式辞（要旨）

谷修一学長



式辞を述べる谷修一学長

▼本日入学した学部学生は九八六名、大学院生は二二九名です。この中には、中国、韓国、モンゴル、ベトナムなど、学部、大学院合わせて六名の留学生の皆さんも含まれております。多くの皆様が我が大学を選ばれ、保健医療福祉の専門職を目指すという選択をされたことに対し、教職員を代表して皆様を心から歓迎し、御祝いを申し上げます。

▼国際医療福祉大学は、医療や福祉の専門職の地位の向上と高度な教育、そして将来における優れた指導者が必要だとする時代の要請に応えるという大きな夢をもって、平成七年に開学しました。学生の教育に関しては、開学以来、病める人も障害を持つ人も健康な人も、お互いを人間としての尊厳を認めあつて生きることを「共に生きる社会を築く」という理念で表わし、これを全学科に共通する教

育の理想として掲げてまいりました。▼さらに本学の教育で重視していることの一つは、臨床教育です。そのために、大学構内及び周辺地区に医療福祉施設を整備しております。学生の皆さんにとっては、教育の現場の中に医療や福祉の現場があることによって、障害者や病気のひとと身近に触れ合い、将来の医療福祉職へのより明確な動機付けとなり、「共に生きる社会」を身近なものに実感できます。▼学部に入学された新入生の皆さんは、自分が目指す専門学科についての知識や技術を習得することが必須であり、多くの皆さんは将来、医療や福祉の現場で、人と直に接し、病気や障害と向きあふことになるでしょうから、病に苦しむ人、障害に悩む人と同じ目線で、生身の人間として接することができるかどうか、大切なことだと私は考えております。豊かな人間性を養うという意味からも、自分の専門以外のことについて幅広い教養を持つことが大切です。常に命の尊さを思い、人に対する思いやりの気持ちと生きる幸せを感じる心を養っていただきたいと願っております。

▼学生生活は大学での授業や勉強だけではなく、友人との交流、好きなスポーツやサークル活動、この大田原の地域の人々との親睦、学内外でのボランティア活動への参加など、この時期に何か一つ打ち込めるものを見出すことは、学業以上に皆さんのこれからの人生にとって大切なことだと思います。学業との両立を心配するよりも、両立させることへの努力にこそ意義があると思います。▼友情というものは、学校で教わるもの

ではない。しかし、友情の意味を学んでいなければ、何も学んだことにはならない、という言葉があります。学生生活を通じて、友情というかけがえのない宝を沢山つくることのできる筈です。若い日に夢見た理想や目的を大切に心にとどめ、青春の夢に忠実に生き続けるという気持ちで、これからの学生生活の一步を踏み出していたください。皆さんのご健闘を期待して、私の歓迎の挨拶とします。

小田原保健医療学部入学式

四月四日（水）、平成十九年度小田原保健医療学部・大学院の入学式が執り行われた。当日は小田原キャンパスの桜も満開の中、絶好の入学式日和となった。真新しいスーツに身を包んだ新入生は期待と不安が入り混じった表情で、入学式場である体育館に進み、晴れの式典に臨んだ。

入学式では谷修一学長がまず「国際医療福祉大学で医療福祉の専門職を目指すことを選択された皆様を歓迎します」と歓迎の言葉を述べた。そして、「病気に苦しむ人、障害の悩みに苦しむ人と同じ目線で接することができる、豊かな人間性をもつコ・メディカルスタッフになってほしい」と



小田原保健医療学部・大学院入学式

の式辞を述べた。続いて小澤・小田原市長、原・小田原箱根商工会議所会頭から祝辞をいただき、次に理学療法学科の田代寛さんが新入生を代表して「多くの経験、知識を身につけ、微力ながら人を支えられる人材になれるよう努力します」と、医療福祉の世界に踏み出した意気込みを「誓いのことば」として述べた。引き続き大学院新入生を代表して保健医療学専攻の浅田

啓嗣さんが研究者の立場から「誓いのことば」を述べた。その後、開原大学院長、田中学部長、各学科長の紹介があり、開学二年目の小田原保健医療学部・大学院入学式は滞りなく終了、新たな年度のスタートとなった。（学務課 村山京三）



校歌斉唱

新入生を迎え 学外オリエンテーション実施

新入生を迎え、今まで以上に賑やかにになった小田原キャンパス。入学式から一ヶ月が経過し、新入生も大学生活に慣れ始めたばかりの五月二日(土)、開学から恒例として学外オリエンテーションを実施した。

小田原市こいの森でパーベキュー

学外オリエンテーションは新入生、在学生、教職員が「親睦を深める」「小田原を知る」「五月病の予防・防止」を目的としている。本年度は昨年同様、小田原市こいの森でのパーベキュー大会開催となった。

当日は快晴に恵まれ、絶好のパーベキュー日和。新入生、在学生、教職員総勢一九二名が小田原駅西口よりバスに乗り



込み、こいの森へと向かった。当日の開催内容については、昨年小田原キャンパスに誕生した学生の自治組織である学友会が中心となり、準備・設営を行った。こいの森にはパーベキュー用の炬が三二基あり、新入生、在学生、教職員は学友会が中心となって班分けしたグループに分かれ、パーベキューの準備を開始した。普段はなかなか話をする機会の少ない先輩や担任以外の教員などと同じ班になることで、新たな親睦を深めることが出来たようだ。パーベキューの準備には、調理をすることももちろん、火をおこし、薪を組んで火を保たなければならず、なかなか思い通りに行かない新入生たちであったが、次第に慣れ、いよいよパーベキュー本番へ。自分たちが調理して焼いた肉や野菜に舌鼓を打つ新入生、在学生、教職員一同であった。



剣道部

部・サークル活動

八団体が部に昇格

新入生を新たに迎えた小田原キャンパスで、昨年度、サークルから部への昇格を申請していた八団体に對して、部への昇格が正式に決定した。昇格が決定したのは、

- 軽音サークル
- バレエサークル
- 野球サークル
- ソフトテニスサークル
- フットサルサークル
- バトミントン
- IMAGE PHOTO CLUB
- 剣道部

小田原キャンパスも開学して一年が経過し、部やサークルが活発に活動を始め



フットサルサークル

ている。昨年度は、野球サークルが栃木本校野球部と親善試合を二回行った。バレエサークルは、秋の大学祭(潮風祭)期間中に目白大学バレエボールサークルと親善試合を戦い、活動の幅を広げている。新年度を迎えて新たにサークルとして学生団体の設立を許可されたのは、硬式テニスサークル OBR(小田原ベルリンガーズ)の二団体。今後の活発な活動が期待される。(学務課 村山京三)



軽音サークル

言語聴覚学科がスタートして

言語聴覚学科長 深浦順一



言語聴覚学科は、四一名の新入生を迎えて今年四月に船出した。四月七日の入学式では、言語聴覚学科の新入生が誓いのことを力強く述べてくれた。入学式後は、九、一〇日のオリエンテーション、

一三、一四日の新入生研修、そして大学における初めての講義を経験し、学生達にとっては慌しく過ぎた四月であったろう。それでも五月からは講義中心の生活になり、少しは大学生活に慣れてきたのではないかと思う。

対象者の利益を最優先する 言語聴覚士を育てる

さて、言語聴覚学科一期生は男子学生の割合が多いせいか、元気が良い。しかし、その元気が度を越していることがな

いか、少し心配になることもある。この元気が、あらゆることに取り組む積極性に結びついてくれることを願っている。言語聴覚障害学概論などの講義で提出させているレポートは、内容はもちろん、その形式も指導しなければならぬ。学生にとっては、一つ一つのことが初めての経験であり、教官にはこれらのことを細やかに指導していくことが求められているのだろう。

このような中で、本学科の教育方針は、どのような言語聴覚士が社会から求められているかということと密接に結びつかなくてはならないと考えている。つまり、しっかりとした理論と技術に基づいた言語聴覚療法を、対象者の方の利益を最優先して提供できる言語聴覚士を育てることが大切になる。

(一) 言語聴覚障害学の理論と技術の系統的学習

言語聴覚士という専門職となるためには、言語聴覚障害学の理論、技術をしっかりとし身につけなければならない。それも系統的に理解していないと、実際の役には立たない。各科目の位置づけをしっかりと理解させながら指導する必要があると考えている。

(二) 修得した知識・技術の実践

修得した知識と技術を対象者の方に実践するのは、容易なことではない。演習や実習を通じて言語聴覚士の臨床に必要

なことを修得させていきたい。対象者の確な把握と分析、それに基づく訓練・指導プランの立案、訓練・指導の実施、再評価という臨床の具体的プロセスに沿って指導し、臨床能力を身につけさせたいと考えている。

(三) 対象者の利益最優先の姿勢

言語聴覚療法の提供は、何よりも対象者本位でなければならない。そのた

四校合同大運動会

五月一九日、福岡リハビリテーション学部と専門学校の柳川リハビリテーション学院、福岡国際医療福祉学院、大川看護福祉専門学校による「第二回国際医療福祉大学・高邦会グループ四校合同大運動会」が行われた。五月晴れの青空の下、リハ学部新グラウンドに約二〇〇人が集結した。鶴大輔実行委員長(リハ学部PT三年)の開会宣言、満留昭久学部長の挨拶に続き、各校の代表者四名による力強い選手宣誓により開幕。競技は、「玉入れ」「綱引き」「障害物競走」などに加え、新種目として「台風の目」「大縄跳び」「天玉ころがし」など、チームワークが必要とされる競技が増え、学校対抗戦らしい種目構成となった。

昼休みに行われた応援合戦は、本年度より競技種目として点数が加算されるようになったこともあり、各校とも前回以上に趣向を凝らした内容であった。本学部はOT一年女子がチャージャー姿で登場し、見事に息の合ったダンスを披露。ポンポンで「IUHW」の文字を作るなど、短期間の練習とは思



アイ・ユー・エイチ・ダブリュー、チャージャー!



学校対抗リレーでリハ学部は見事1位!

言語聴覚学科はスタートしたばかりではあるが、他学科の経験を参考にして、社会に貢献できる優れた言語聴覚士を育てていきたいと考えている。

めには、あらゆる機会を通じ、対象者の利益を最優先する姿勢を身につけさせたいと考えている。

えない完璧な演技で観客を沸かせた。その後、さらしを巻いた女性団長率いる応援団が演舞を披露、見事一位を獲得した。一番の盛り上がりを見せたのが、各校の俊足自慢を集めた最終種目「学校対抗リレー」。前半出遅れたりハ学部チームだったが、徐々に追い上げ一着でゴール。惜しくも総合優勝には届かなかったが、リハ学部は準優勝。山口雅也高邦会名誉理事長より表彰状が授与された。

実行委員長という重責を果たした鶴大輔さんは「約半年前から準備してきたが、あつという間に終わった感じがした。一つのことを実行委員のみんなとやり遂げたという達成感と充実感でいっぱいです」と満足げな様子だった。(広報係 吉原理恵)



記念撮影

高木理事長を囲んで、湯理事長(右)、李センター長(左)一行と中国リハビリテーションセンターとの会議



高木理事長を囲んで、湯理事長(右)、李センター長(左)一行と中国リハビリテーションセンターとの会議

この作業部会(Working Group: WG)では杖、歩行器、歩行車などの歩行補助具の規格についての議論をしてい

トピックス

Topics

高木理事長が中国リハビリテーション研究センターを訪問

五月八日、高木理事長一行が三年半振りに中国リハビリテーション研究センターを訪問した。これは五年間にわたるJICA(独立行政法人国際協力機構)による本学と同センターとの「中国リハビリテーション専門職養成プロジェクト」がひとまず終了したことを受けたものである(現在は一年間のフォローアップ業

務を実施中)。中国障害者連合会の湯理事長(前同センター長)、李同センター長ら幹部の出迎えがあり、会談では一九九六年のTAO(アジア初の衛星を利用した遠隔リハビリテーション医療教育)から始まった技術協力や、本学学生の夏季海外研修をはじめとした広範囲に及ぶ交流を振り返り、成果の確認を行った。双方が「十年を超えてお互いの信頼と友好関係の確立」を強調し、湯理事長からは「(中国のリハビリテーション医学発展における)貴校の取り組みに深く感謝する」との言葉が述べられた。本学は、教員派遣や大学院修士課程への研修員受入れなどのほかに、独自にフルスカラーシップの学部留学生を受け入れるなど、幅広い支援を行ってきた。そしてそれらの活動は、外務省、JICAからも高い評価を受けている。経済成長めざましい中国でのリハビリテーション医学の発展、そしてお互いの将来を熱く語り合いながら、旧交を温める訪問であった。(東京事務所 総務部)

東京サテライトキャンパスでISO国際会議が開催される

ISO(国際標準化機構。その規格自体も表す)とは、各種の工業製品の標準規格を定める国際的な機関で、皆様はこの数年話題となっているISO14000やISO9000という名称で見覚えがあるのではないだろうか。でも、福祉用具にもISO規格があるのをご存じでしょうか。車いす、介護用ベッド、杖などの歩行補助具、スツール、リフトなど多くの福祉用具についてもISOがあります。

五月九日、一〇日の両日、青山に新しく出来たばかりの大学院東京サテライトキャンパスにおいて、歩行補助具を対象とするISO作業部会ISO/TC173/WG1が開催されました。本学の田中繁(大学院・福祉援助工学分野)が昨年の一月一日より部会の議長を務めており、就任一年目ということ、議長国での開催となったものです。

参加者は、エキスパートなどの正式メンバーが八名、オブザーバーが一五名ほどでした。八名のうち外国からの参加はノールウェー、スウェーデン、韓国で、その他アメリカの会社の日本人から一名参加しました。オブザーバーは、国内の関連委員会に参加している方々、国内の業界団体の関係者、そして大学院の学生などでした。

この作業部会(Working Group: WG)では杖、歩行器、歩行車などの歩行補助具の規格についての議論をしてい



会議の様子。右より、議長(田中教授)と各国のエキスパート(ノールウェー、フィンランド、韓国)

平成19年度在宅地域ケア研究センター研究テーマ(リプライフ社委託研究)

学科	研究分野	代表研究者	研究テーマ
看護	基礎・感染看護学	操華子	術後補助療法目的で外来化学療法を受けている大腸がん患者の栄養状態の推移と有害事象、QOLに関する調査
	小児・家族看護学	村田恵子	障害児の在宅ケア向上のための家族ケアプログラムの開発—施設・地域連携型継続ケアシステムと家族中心ケアの統合的アプローチ—
	リプロダクティブヘルス看護学	井村真澄	日本における母乳育児支援の専門家庭教育プログラムの開発
	成人看護学	藤村龍子	循環器疾患患者のための家族ケアプログラムの開発と成果の研究
	精神看護学	荻野雅	長期入院精神障害者の退院援助評価スケールの開発と有効性の検証
	在宅ケア看護学	片倉直子	精神疾患をもつ社会復帰施設利用者に対する看護師の健康相談の有効性に関する研究
	地域看護学	荒木田美香子	特別養護老人ホーム介護職への「腰痛リスクマネジメントプログラム」の開発
	老年看護学	薬袋淳子	小田原市高齢者健康推進事業—地域づくり、そして、団塊の世代円滑地域デビューに向けて—
	理学療法	理学療法評価学	昇寛
運動療法学		昇寛	関節固有感覚運動装置「Roller Pedal」の考案と作製—臥位での下肢運動促進装置—「特許申請中」
作業療法	地域精神保健福祉	山路博文	研究1 うつ予防スケールの信頼性・妥当性の検討 研究2 睡眠の質の検討
	作業療法治療学	森田千晶	乗馬療法における簡易型効果判定スケールの開発
在宅地域ケア研究センター	リハビリテーション工学	窪田聡	座位における体幹運動計測装置の開発
	在宅地域ケア研究センター	島内節	在宅End of Life Careにおける国際共同研究による標準化と実用化および教育ツールの普及「特許申請中」
		島内節	在宅軽度要介護高齢者の自立促進の国内外調査に基づく利用者・専門職への教育ツールの開発
		島内節	在宅クニカルバスの開発
		西田幸典	在宅ケアにおける診療報酬の改訂を求める政策研究

研究最前線

第三回

小田原保健医療学部 在宅地域ケア研究センター

責任者 島内節 看護学科長・教授

本学で行われているすぐれた研究を紹介する「研究最前線」の第三回は、在宅地域ケア研究センターの活動を取り上げます。

在宅地域ケアの質の向上をめざして 島内節教授の尽力によって設立された在宅地域ケア研究センターでは、小田原保健

医療学部の教員が行う各専門分野での研究を支援するとともに、研究センター独自の研究も行っていきます。また他大学、他機関とも協働して研究を進めています。平成一九年度の研究については表をご覧ください。研究センターは研究ばかりでなく、研究成果の地域社会への還元にも力を入れています。子育てや不妊などがテーマの講演会、介護予防などがテーマのシルバード大学や成人学校、保健医療専門職が対象の研修会、行政機関の行う保健医療福祉サービスへの支援やコンサルティング活動・評価などです。また、共同研究をデータベースにまとめたり、報告書や出版物にして普及を図っています。「保健医療福祉活動のネットワークの

拡大・強化および在宅地域ケアの質の向上」が研究センターの願いです。

次に、研究センターで行われている多くの研究のうちの一つを紹介いたします。

下駄型ローラーペダル運動器の開発

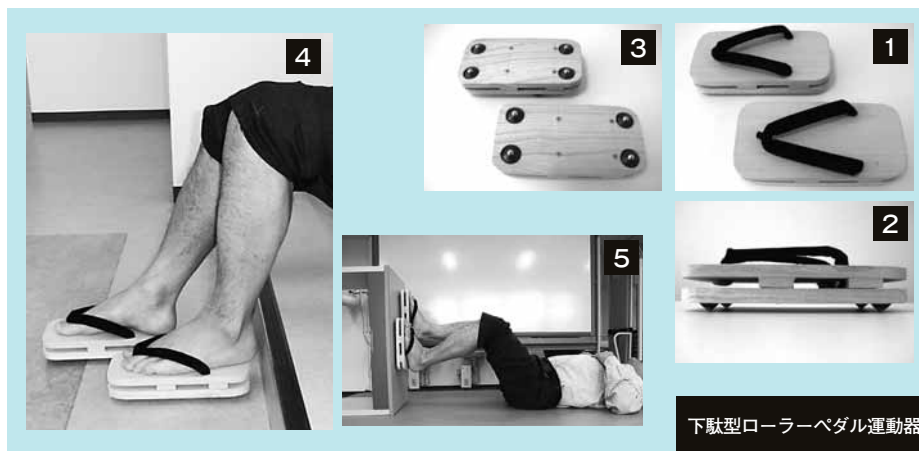
昇寛 准教授(理学療法学科)

骨折や脳卒中が原因で長期の寝たきり生活や低運動性状態を余儀なくされた場合、下肢筋力や下肢各関節可動域や下肢協調性機能が低下し、足(下肢)の運動能力が衰退することが懸念されます。長期臥床者や低運動性高齢者が生活活動能力を高め、下肢関節固有感覚を促進することを目的として、昇寛准教授は「下駄型ローラーペダル運動器」を考案、開発しました。

この下駄型運動器のすぐれた特徴は二つあります。

- ①底の四隅にローラーが埋め込まれていて(写真3)、床面を滑走しやすくなっています。足指で鼻緒を挟んで運動器全体を固定し、自由に床面を滑走運動することで、股関節、膝関節、足関節の運動制御練習ができます。
- ②鼻緒に足指を差し込み、挟み続けることで、足指の把握力、足指内転筋の強化運動ができます。足指内転筋運動は足指屈筋活動も活発に促進し、立位バランスの向上に役立ちます。

この運動器は携帯可能で、病室や自宅でも簡便に使用でき、異なる股位や体位にも容易に適応します。下肢に変形性関節症などの疾患を持つ人は座位で使用でき(写真4)、寝たきり状態の人は仰臥位のままボードをベッド上に置くことで使用できます(写真



5)。この運動器の効果的な使用法は、座位で両足に運動器を履き、左右の足で同時に運動を行うことで、両足の協調性運動(関節固有感覚促進運動)になります。また、この運動器を履いた二人が向い合せに椅子に座り、バックを蹴りあうゲーム運動を行えば、さらに高いレベルの下肢関節固有感覚促進運動が期待できます。

なお、この運動器は特許庁に特許出願中です。(構成・出版広報室 山内邦雄)

新入生オリエンテーションツアー

八割の学生が親睦深まった！

保健医療学部看護学科では四月二日、若葉が芽生える那須高原で、仲間や教員との親睦を深め、学生生活に溶け込む第一歩になる新入生オリエンテーションツアーを実施した。

簡単なゲームで緊張をほぐした後、小グループに分かれて一人一分間の自己紹介を行ったが、自分の個性を言葉や体で表現し、仲間の話を熱心に聞く姿が見られ、相互理解が深まった。お互いの顔と名前を覚え打ち解けたところで、各グループに与えられた「お題」を、体のみで会場の仲間に表現するプログラムに移った。お互いの知恵を出し合って練習を行う中でより交流が深まり、本番では、パフォーマンスを披露している表情が生き生きと若者らしさであふれていた。陶芸等の体験学習では、創造性豊かな形や絵などをあしらった器が出来上り、お互い



新入生オリエンテーションツアー

に品評しあい、独自性がアピールされた。帰りのバスでは一段と会話が弾んだ。(看護学科講師・一学年担当 糸井裕子)

看護学を創造し 臨床に翔く看護師を育成

看護カリキュラム

看護学科では、今年度の入学生から改編カリキュラムを実施している。改編カリキュラムは、全体を一三二単位から一二七単位にスリム化し、より看護学に特化したカリキュラム内容としている。これは、看護の対象を生活機能障害(国家試験出題基準に準拠)とし、医学や他の領域の知識を看護学を含め、人々の生活機能障害に対する看護実践力を養う看護学教育を目指すものである。そのため、これまでの「解剖学」「生理学」「疾病論」を「生体形態論」「生体機能論」「機能障害論」と科目名を改め、看護学学習との関連性を明確にした体系的な編成とした。また「ヒューマンズスキル演習」や「看護コミュニケーション演習」を通して医療人としての人間関係能力を養い、他のコミュニケーションと協働しながら主体性をもった看護実践能力の発揮できる人材育成を目指している。同時進行の旧カリキュラムと融和させながらの導入である。新カリキュラム卒業生にご期待ください。(看護学科副学長・教務担当 藤本幸三) ●看護学科の公開学習会にご参加を テーマ プレゼンテーションの技を磨く 日時 九月一日(土) 一〇時~一五時頃 場所 本校構内(お問合せください) 参加費 三五〇〇円(資料・昼食代込)

第一回DPCセミナーを 札幌で開催

医療経営管理学科が事務局を務める日本DPC協議会の第一回セミナーが五月九日、札幌で開催された。同会はこれまでのDPC病院協議会の活動を継承し、今秋のNPO法人取得を目指している。

DPC(一日当り疾患別定額払い方式)は、急性期病院の経営の要となるだけに関心が高く、セミナーには、病院や医療関連企業の関係者、診療情報管理士ら二四三人が参加、厚生労働省企画官や高橋泰学科長の「DPCの課題や将来」の講演に熱心に耳を傾けていた。今後は名古屋、福岡、大阪、東京など全国五会場でセミナーを実施、ホームページ、ニュースレターで、DPCに関する情報発信を行う。

鳥羽教授、診療情報管理士会代表に



鳥羽克子教授

医療の高度化、情報化に伴い役割が増し、資格取得者も一万三〇〇〇人を超えた「診療情報管理士」。これまで複数の職能団体があったが、このほど「日本診療

情報管理士会」に一本化され、医療経営管理学科の鳥羽克子教授が、四月の設立研修会で会代表の執行部会長に選ばれた。(医療経営管理学科)

イブニングタイム公開講座

「眼の大切さ、見えることのすばらしさを知ろう」をテーマに視機能療法学科教授陣をはじめ、外部からも講師をお招きしてイブニングタイム公開講座を一〇月四日から開講いたします。会場は大田原本校F一〇一教室、時間は各回とも一八時三〇分から一九時三〇分、受講料は全八回三〇〇〇円(事前登録)、一回五〇〇円です。ふるってご参加ください。お問合せ、お申込みは八月一日より総務課 ☎〇二八七(二四)三〇〇〇まで。(視機能療法学科)

日程	テーマ	講師	所属等
10月4日	小児の視機能とその異常	新井田孝裕 藤田純子	視機能療法学科教授 視機能療法学科講師
10月11日	目に効く食べ物	宇賀茂三	視機能療法学科教授
10月18日	ドライアイの方のコンタクトレンズ使用法	宇賀見義一	日本眼科医会理事 視機能療法学科非常勤講師
10月25日	白内障について	小原喜隆	視機能療法学科教授
11月1日	近視矯正手術最新情報	小松真理	視機能療法学科教授 (山王病院)
11月8日	目の成人病とその予防	山田徹人 小町祐子	視機能療法学科准教授 視機能療法学科講師
11月15日	めぐみ、なるほど話し	三柴恵美子	視機能療法学科講師
11月22日	見えにくい時は？ —視能訓練士の立場から—	三輪まり枝	国立身体障害者リハビリテーションセンター視能訓練士

数年前の秋、京都で学会があった折、少し時間を持つことが出来たので、京都駅周辺を散策してみた。北口をでて、西に向かう。目指すは新撰組ゆかりの「油小路」である。北辰一刀流の剣客にして国学に深く、勤皇攘夷派として知られていた伊東甲子太郎は、既に新撰組に入隊していた同門の藤堂平助の勧めもあって、元治元年(一八六四)新撰組に入隊した。弁舌鮮やかで論が立ち、すぐに新撰組参謀という要職についた。新撰組隊士の中にも、伊東の論に傾倒する者が多くいた。一方、真面目に「武」を唯一の精神的支柱にすえ、隊規から外れる者を肅清という名のもとに暗殺または切腹で隊をまとめてきた近藤勇、土方歳三らは何となく面白くない。伊東派と近藤派の間に次第に精神的な溝が出来たのは自然の成り行きというものだろう。近藤、土方は佐幕派だったから、理屈の上でも伊東の勤皇思想にはなじめなかったかもしれない。このような新撰組内部事情を伏線として、かねてから勤皇を公言してはばからなかった伊東は、慶応三年(一八六七)三月光明天皇の御陵衛士を拝命し、伊東派一門をつけて新撰組を去った。そして幕府転覆を狙っている薩摩藩の大久保一蔵(利通)や中村半次郎(桐野利秋)らと盛んに通じた。当初、近藤らと伊東は「攘夷」という点で意見の一致を見ていたが、ここにおいて伊東は完全に幕府の敵、新撰組の敵とみなされるようになった。さて慶応三年一月十八日。近藤は「時勢を語りた」という内容の手紙を伊東

私の主張 第5回 **「油小路」の記憶** 国際医療福祉大学病院 神経内科/教授 **橋本律夫**

に送り、自分の妾宅に伊東を呼んでたかに酔わせた。伊東は自分の論力に自信があったし、近藤の純朴そうな態度と甘言にもだまされたのであろう。午後一〇時頃、酔い酔いの状態で伊東は妾宅を辞し、歩き出した。寒月が輝き、静まった京の町を冷気が包んでいた。伊東が千鳥足で油小路まで歩いてきた時、堀のわきから突如凶刃が閃き、肩から喉にかけてブツリと刺されてしまった。伊東は槍を刺されたまま、襲い掛かってきた一人を袈裟懸けに切ったというから、やはり並ならぬ剣客であったと思われる。槍が抜かれると出血著しく、伊東は絶命した。新撰組に謀殺されたのである。新撰組は伊東の死体を油小路七条の辻に捨て置いて、御陵衛士の仲間が引き取りに来るのを待ち伏せした。御陵衛士の服部武雄、毛内有之介、藤堂平助は新撰組隊士と散々に斬り合ったが闘死。翌朝の油小路は血しびきが板戸に飛び散り、そこかしこに指や肉片が落ちていたという。以上、子母澤寛、司馬遼太郎の本を読んで知ったことである。私が見た油小路は明るい秋の日が差し、仏具や和菓子の店が軒を並べている何の変哲も無い小路であった。しかし、雲が日をさえぎり暗くなった時、伊東の千鳥足で歩く姿、物陰で息をひそめ潜伏している新撰組隊士の姿が一瞬見えたような気がした。このときの記憶は今も消えずに残っている。知識と現場での経験は重層的な記憶となつて保存されやすいのだろう。学生さんたちにも重層的記憶術をお勧めする。



真剣に検査に取り組む学生(右)とそれを評価する教員(中央)

初めての総合臨床能力評価 保健医療学部言語聴覚学科では初めての試みとして、四月三日、これから総合実習に出る前の四年生に対して、総合臨床能力評価(OSCE)を実施した。学生は当日、成人言語、小児言語、発声発語、聴覚の四領域について、その場で種々の検査、評価を行うように指示された。評価の視点は、①基本的態度(表情、身だしなみ、声の大きさ等)、②会話技術(成人及び小児コミュニケーション障害を持つ方々との会話)、③検査技術(標準失語症検査、純音聴力検査、口腔視診等)とした。学科教員が演じる対象者を前に、学生は事前に知らされていらない評価項目について、とまどいながらも真剣に取り組んだ。結果は厳しいものであったが、終了後学生は「知識不足を痛感した」「これから取り組まなければならぬ課題を見つけた」など、ペーパー試験では得られなかった強い危機感を持つことができたようであった。学科ではさらに検討を重ね、時代のニーズに沿った臨床能力評価実施に向けて取り組んでいきたいと思う。(言語聴覚学科准教授 森田秋子)

初期臨床研修医のグループ合同オリエンテーション 国際医療福祉大学・高邦会グループは質の高いチーム医療に貢献できる医師を育成するため、平成一七年よりグループという特長を活かす「中央臨床研修委員会」という形で、臨床研修指定病院(国際医療福祉大学病院、熱海病院、三田病院、高木病院)の支援、研修医の募集・合同研修の企画・指導医の養成等を行っています。昨年と同様、今年も四月一九~二一日の三日間、四病院の初期研修医二名を一同に集め、合同オリエンテーションを開催しました。大学本校を皮切りに、栃木・東京・熱海地区の施設を見学し、高木理事長、谷学長をはじめ多数の方々から、医師としてのスタートラインに立つにあたり、人格涵養、医療安全などについて貴重な講義をいただきました。「はじめが肝心」。右も左もまだわからない研修医の方々に、研修の方向性を示していただいた意義深い企画であったと自負しております。開催にご協力くださった皆様、誠にありがとうございました。(中央臨床研修委員会委員長 村山史雄)

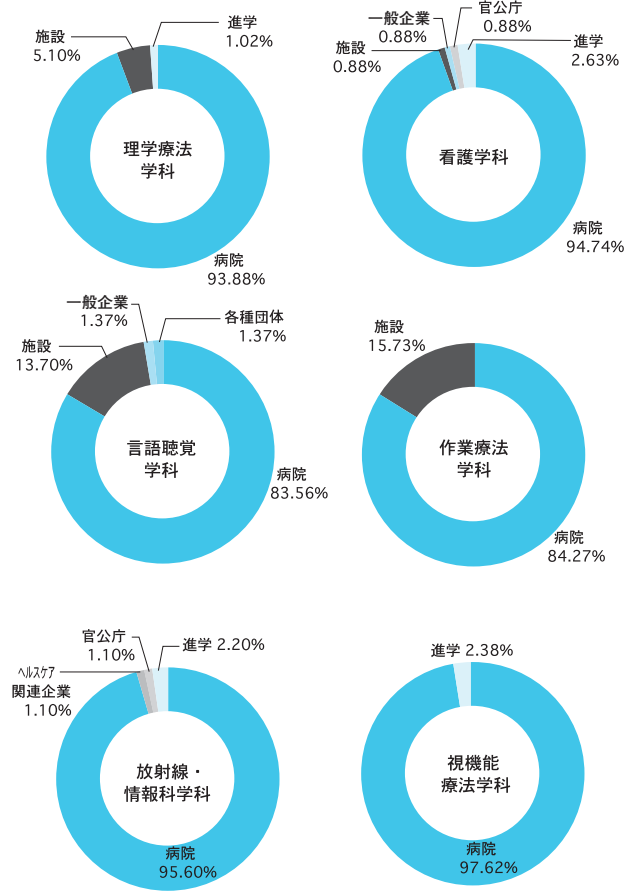


大学本校での記念撮影

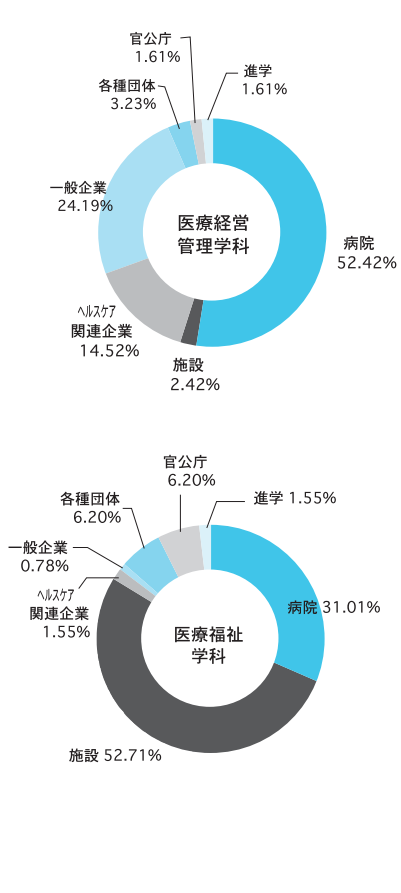
平成一八年度卒業生の進路

(本校学生課)

保健医療学部



医療福祉学部



サークル紹介 第二回

ダンス部

保健医療部理学療法学科三年
ダンス部長 秋元拓也

私たちダンス部は学内のサークルでは一、二を争う大きな団体の一つです。現在、部員数は五二人。新入生や新しい仲間を迎えて、ますます活気あふれた部活になっていきます。

練習日は月、水、金曜日を中心に体育館で踊っています。また、その他の曜日はカフェテリアの外などで自主的に練習しています。普段の練習は全員そろって基礎練習をしたり、個人的に踊ったり、好きな音楽をかけ、皆で楽しく踊っています。部活の活動内容は、四月に新入生歓迎のイベント、六月には部外の人も踊れるイベント、一〇月に大学祭(風花祭)イベント、そして二月には那須野が原ハーモニホール(大田原市)を借り切っての公演を行います。

さらに私たちの活動は学内だけに留まりません。例えば老人福祉センターでダンスを披露したり、小さな子どもたちと一緒に踊ったり、地域の方々とフィットネスダンスをしたり、お祭りに参加させてもらったりなど、地域とのつながりを持っています。

私たちダンス部は、自分たちの力でイベントを作り上げていかなければなりません。その中で部員同士の意見の食い違いや衝突はたびたびあります。しかし、皆でミーティングを重ね話し合うことによって、より良いイベントを作り上げていきます。したがって、ダンサーとして成長するだけでなく、人としても成長できる素晴らしい場なのです。またダンス部は部員が多いため、他学科生との交流が広



新入生歓迎会にて

がり、自分自身の視野を広げることができるところでもあります。好きな音楽も、これまでやってきたことも、今勉強していることも、それぞれに違う、たかさんの人が集まるこのダンス部。私たちは「ダンス」という一つのものを通して仲間になることができそうです。好きな音楽に合わせて踊る楽しさやお客さんの前で踊る気持ちよさというのは、仲間がいてこそのもので、そんな素敵な場所こそがダンス部です。

リハ学部と大川樟風高校との
高大連携講座がスタート

大学院に来年度開設予定の
新分野

四月一八日、福岡リハビリテーション学部と福岡県立大川樟風高校(大川市)との高大連携講座がスタートした。福岡県での大学と県立高校との高大連携は五例目で、筑後地区では初めてのことになる。講座は一〇月二四日まで、リハ学部の講義室等で実施される。大川樟風高校の生徒六〇名が放課後や夏休みを利用して大学を訪れ、「医療・福祉の世界」をテーマとした二・三年生対象の講座(計二五回)を受講するほか、一年生を対象とした体験入学なども行われる。受講生には本学より修了証を授与し、高校では保健科の増加単位として一単位が与えられる。講座に先立ち、四月一七日にリハ学部で調印式が行われ、協定書を交わした。上田廣志校長が「生徒達の知的好奇心の刺激になり、進路や職業選択の動機づけになる」と述べ、これに対し満留昭久学部長は「学問や研究をする喜びを知ってもらいたい」と応じた。



第1回目の授業を行う田原弘幸理学療法学科長



協定書を取り交わす満留学部長(右)と上田校長

(広報係 吉原理恵)

今、病院では、診療情報管理、医事情報処理、がん登録などの知識をもって診療情報を分析できる人材への要望が高まっている。このような人材を仮に「診療情報アナリスト」と呼ぶことにして、大学院では、その本格的な養成コースを開設する予定である。分野責任者として、本年四月から日本診療情報管理士会会長に就任された鳥羽克子教授を迎える。すでに診療情報管理士の資格を持つ人に適当なコースとなると思われる。

e-乃木坂スクール開始

大学院では、五月からインターネットを利用した公開講座「e乃木坂スクール」を開始した。インターネット配信(VO D)講座は、インターネットブロードバンド回線とパソコンさえあれば、時間・場所を問わず受講が可能であり、特に社会人の方のニーズに応えるものと期待される。また、講座のインターネット同時中継も試験的に開始。随時受講受付中なので、ご興味のある方は大学ホームページをご参照ください。

(大学院東京キャンパス 大澤倫子)

平成18年度 国家試験受験結果

受験区分	本学			全国合格率
	受験者数(名)	合格者数(名)	合格率	
保健師	115	112	97.4%	99.0%
助産師	5	4	80.0%	94.3%
看護師	116	110	94.8%	90.6%
理学療法士	100	99	99.0%	93.2%
作業療法士	89	88	98.9%	85.8%
言語聴覚士	88	75	85.2%	54.5%
視能訓練士	43	43	100.0%	95.3%
診療放射線技師	106	103	97.2%	76.5%
社会福祉士	149	91	61.1%	27.4%
精神保健福祉士	21	21	100.0%	60.3%

※本学の合格率は新卒者の合格率。全国の合格率には既卒者や大卒者以外も含む。

(本校教務課)

私のおすすめ本

藤沢秀行著

「こま書房(一九九八年、一四〇〇円)

著者の名前を聞いて「あの人か!」と思われる方はかなりの困窮者である。彼の職業は棋士である。そして天衣無縫なのである。というより、放蕩息子ならぬ放蕩オヤジと言わなければならない。この本には、「男」が一度は夢に見る彼の半生が描かれている。しかし、その人生は重い。人は大なり小なり、幾つかの修羅場を乗り越えてきているはずであるが、その修羅場の重さが違うのである。サラ金裁判の第一号であり、生活はその日暮りだったというが、暮の研究の道だけは残しておいたという。だからこそ、彼は言うのである。「酒に飲まれるくらい

放射線・情報科学科准教授 土屋仁

なら、飲まなければ良い。ギャンブルで身を崩すと思ったら、近づかない方がいい」と言い切っていることに彼の人生観がある。彼は、名入位をはじめ多くのタイトルを持ちながらも、自分はヘボだと言う。そして、「もし、暮の神様が存在し、神が百知っているとするならば、自分は五か十であろう」と断言する。十数年前に亡くなった、東京大学病院(第三内科)の沖中重雄教授(若い方はご存じないかも知れないが、とにかく凄腕の先生)が定年退職される時に、「自分は一四・五%の誤診をしていた」と言って、大きな話題を呼んだことがあった。当時彼もまた「内科の神様」とまで言われた人である。私はこの本を読みながら、この二人に人生の共通点を見つけた。だからこ



リハビリスタッフと勉強会をする伊藤整形外科部長

化学療法研究所附属病院

整形外科の診療体制を強化しました

整形外科部長 伊藤聰一郎

これまででは整形外科の常勤医が不在で、週に一度非常勤医師による外来診療が行われていただけだったため、診療の際に必要な装置も充分ではありませんでした。ギブスセットやシーネはもとより、七つ道具の一つであるベンチ等よく日曜大工で用いられる工具も常備されていませでした。手術場に外科の器具は揃っているのですが、大道具・小道具の類はなく、これでは整形外科の手術はできない状況でした。当科が人体を扱う大工であることを改めて実感いたしました。院内がこのような状況ですから、近隣においても当院整形外科の存在はほとんど認知されておらず、このため、当初の仕事は、まず院内の備品を少なくとも整形外科として機能できるように最低限の整備をし、医師会や消防署へあいさつ回りに行くことでした。

幸いしたのは、税務病院長や永田事務局長をはじめとして、院内が丸ごと新生化研病院を作ろうという気運が強

く、職員が整形外科をバックアップしてくれることでした。五月に入るとこの効果が少しずつ現れ、はじめは閉古鳥が鳴いていた外来にも定期的に患者様がいらっしゃるようになり、手術件数も徐々に増えてまいりました。記念すべき当科における手術症例の第一例目が某セクシヨンの責任者というのも、いかに職員が当科の立上げに協力しているかを示唆しております。

私の専門である手の外科は基本的に外傷学ですが、この地域には高齢者が多く、開放骨折やスポーツ外傷の症例は少ないようです。このため、骨粗鬆症を基盤とする骨折(多い順に、脊椎圧迫骨折、大腿骨頸部骨折、手・肘関節骨折)と変形性関節症の治療体制を確立することが、当面の目標となります。従って、現在救急指定でありませんが、救急隊の要請にも柔軟に対応しております。しかし、今後救急車による搬送が徐々に増えることが予想されますので、これに対応できるよう救急体制を整備することが、次の課題です。またPT五人、OT三人、ST二人とリハビリスタッフが充実している

ので、若いスタッフが機能解剖を理解し、疾患に関する専門知識を身につけることができるよう、定期的な勉強会を開いております。必要な基礎知識を持った上で、整形外科とリハビリ科が協力して治療にあたり、高齢の患者様が社会復帰できることを目標として、「運動器疾患の総合的治療とリハビリ」を理念に掲げ、鋭意努力しております。新生化研病院が一日も早く立ち立ちできるよう、グループの皆様のご支援を是非お願いいたします。



▶展示室より建築現場を見学する参加者 ▲グループの概要説明に熱心にメモを取る参加者も

医療法人社団 高邦会

シーサイドももち新病院見学会を開催

三月二七日、高邦会主催による「シーサイドももち新病院見学会・説明会」が開催されました。この催しは、高邦会が二〇〇九年の完成を目指して、福岡市早良区百道浜で病院の建設を進めている「シーサイドももち共同事業」の現地見学や懇親会等を盛り込んだもの。看護師を

目指して就職活動を行っている看護大学

生、専門学校生に対して、当グループへの理解を深めてもらおうという目的で企画されました。

この日は、春休みということもあってか、九州各地の看護大学生、専門学校生総勢約一七〇名と多数の参加者を迎えることができました。グループが実施した看護師向けの催しの中でも、これまでにない大規模なものとなりました。

福岡タワーの一階ホールで行われた全体説明会では、高木病院より古賀由美看護部長、柳川リハビリテーション病院よ

り田中明美看護部長、そして関東地区より関連病院看護室の山本典子看護室長が各病院の看護職の方に対する取り組み等を説明しました。

その後、全員タワー展望室へ移動。高さ一二三mの展望室から眺める新病院の建築現場の様子に参加者は感

激した面持ち。中には現場の様子を撮影する方もおられました。

引き続き行われたJALリゾートシーパークホテル福岡での懇親会では、ランチを共にしながら、教員や病院関係者等が学生達と和やかな雰囲気の中で交流する様子が見られました。

「新しい病院が出来る」と聞いて参加しました。予想以上に大きいのでびっくりしました」と語るのは、福岡市への就職を希望しているという熊本からの参加者。

参加者の方に行ったアンケートからは「新病院を実際見てみたい」といった要望も多く、シーサイドももちの新病院への関心の高さが伺われました。

企画に携わった渡邊雄二高邦会理事は「参加者の方々と直接お話をし、グループ病院に対して高い興味を持っていただけたということを実感できました」と、イベントに対する手応えを感じたようです。夏休み期間中の八月三日(木)に、第二弾の説明会実施を計画中です。

(九州広報 原田ちはる)



参加者にあいさつをする渡邊雄二高邦会理事



IVR-CT

国際医療福祉大学三田病院

二年が経過したところで、このたび院長に就任いたしました。その間、地域における中核的医療施設としての整備を行い、将来構想として、がん治療拠点病院をめざした運営を行ってまいりました。おかげさまで、関係各位の多大なご協力により、着々と体制が整いつつあるところでございます。

医療というのは、本来医師や看護師だけが行うものではなく、他のコメディカル(医師以外の医療福祉専門職)たちと互いに連携しながらケアにあたる必要があり、このチーム医療があつてこ



北島政樹病院長

◆北島病院長ご挨拶◆

本初となる頭蓋底外科センター(センター長・鎌田信悦教授)を開設し、専門領域のさらなる充実を図っています。

設備面では、64列マルチスライスCTのほか、高速マルチスライスCTと血管造影装置を複合したIVR・CTを新たに導入しました。最新鋭のPET・CTを利用したがん重点健診や、ラジオ波治療の開始など、がん治療における拠点病院としての体制を整備しています。

(総務企画課 杉田由紀)

そ、患者様へ質の高い医療をご提供できます。

当院は、リハビリテーション分野において、全国屈指のレベルにある国際医療福祉大学の附属機関としての位置づけと、他に類を見ない実績を持った医師集団によるチーム医療を組み合わせ、最高レベルの医療をご提供してまいります。

都内には大病院が多いとはいえ、山手線内の地域には、治療からリハビリテーションまでを一貫して行うことのできる病院は、意外と見あたりません。当院では、頭頸部腫瘍センターや脊椎・脊髄センターなどに見られるような、手術からリハビリテーションまで対応できる医療機関をめざしております。

また、がん治療におきましては、最新医療機器の導入や専門医による診療体制の充実を行ったことで、皆様方に安心かつ安全な医療をご提供することが可能となりました。当院では、一疾患に対し、多くの診療科が共通の視点に立ち、患者様の苦しみを共有しながら治療にあたっております。

大学で育成しております医療・福祉に精通した多くの人材と、当院の診療体系とが一体となってチーム医療をめざし、皆様方から期待される良質な医療、つまり「人に優しい医療(低侵襲医療)」および「個々の人に合った医療(個別化医療)」の確立に、鋭意努力する所存でございます。

今後とも皆様方のご理解とご協力のほど、衷心よりお願い申し上げます。



楽しい食事の時間

臨床医学研究センター(東京地区)

グループホーム青山

グループホーム青山がスタート

四月に開設された、医療法人財団順和会による認知症対応型高齢者共同生活介護施設「グループホーム青山」では、季節に合わせて月一回、行事やレクリエーション等を行っています。また、近所を散歩したり、スタッフと一緒に買い物をしたりして、入居者の皆様はアットホームな雰囲気の中で過ごされています。

入居者の皆様は趣味や特技などさまざまなものを持っており、今後それを活かせる場を今よりも多く作りたいと思っています。そして生きがいを感じたり、持ってもらえるよう、また充実した毎日が送れるよう、スタッフ一同強い気持ちでがんばってまいります。

(グループホーム青山 神田健介)

「医療福祉チャンネル774」おすすめの番組

医療福祉チャンネル774では、衛星放送スカイパーフェクTV!774チャンネルで、医療・福祉・健康・介護に関する教育、教養、情報番組を放送!

国際医療福祉大学アワー7月号

大学病院のナースに密着

大学病院で働く若きナースを特集。大学で学んだことだけにとどまらず、医療現場で求められることは多岐かつ多岐にわたります。人の命を預かる、失敗の許されない医療現場で、緊張の日々を送りながら活躍する先輩ナースに密着します。在宅医療や生活習慣病対策など、医療制度改革において看護への期待が高まるなか、積極的に院内教育に取り組むなど、IHWグループの充実した看護体制にも迫ります。



◀現場で活躍する先輩ナースに密着

国際医療福祉大学大学院 乃木坂スクール

理学療法トピックス

——呼吸理学療法対象者に対する評価とアプローチ

解剖・運動学・病態など基礎的事項と基本的な胸部レントゲンの見方、これを踏まえて急性期・周術期の呼吸管理を学習し、また、慢性期の呼吸管理、ADL、QOLを検討します。実技では、胸郭の柔軟性や呼吸状態を改善する徒手的方法・基本的な呼吸方法・機器を使用した方法、各種呼吸手技について学習します。(講義11回、実技3回)



◀丸山仁司教授(国際医療福祉大学保健医療学部理学療法学科長)

ケアマネジャー受験講座2007 介護福祉士受験講座2008

大好評の資格試験受験講座が始まりました!

日本で唯一の「医療と福祉の専門チャンネル」だからこそ、充実した内容と最新情報をお届けします!「医療福祉チャンネル774」で視聴するテレビ講座と、インターネットで学習するインターネット講座。忙しいあなたもマイペースで学習できます。

◆テレビ講座



番組テキストを用い「見る」「聴く」「読む」の繰り返しで、無駄なく効率的に学習できます。

◀開原成允教授(国際医療福祉大学大学院院長)

◆インターネット講座



いつでも・どこでも・何度でも。好きな時間に自分のペースで学習できるインターネット講座も大好評。
※詳細はこちらから
<http://www.ch774.com/>

◀小林雅彦教授(国際医療福祉大学医療福祉学部医療福祉学科)

●医療福祉チャンネル774を見るには

「医療福祉チャンネル774」は衛星放送スカイパーフェクTV!の774チャンネルでご視聴いただけます。ご視聴には、スカイパーフェクTV!専用アンテナ&チューナーをお部屋のテレビにつなぐだけ!
○視聴料・・・月額2,100円(このほかに、スカイパーフェクTV!加入料・・・2,940円(初回のみ)・スカイパーフェクTV!月額基本料・・・410円がかかります)
法人契約・・・5,250円
○IUHW学生、マロニエ会会員、教育後援会会員の皆様は、特別視聴の制度があります。下記までお問い合わせください。

●視聴に関するお問い合わせは

フリーダイヤル 0120-870-774((株)医療福祉総合研究所 お客さま係) Eメール info@iryofukushi.com HP www.iryofukushi.com/

広報誌 IUHW 70号

発行：学校法人 国際医療福祉大学

〔大田原本校〕広報委員会

栃木県大田原市北金丸2600-1 ☎0287-24-3000

〔小田原キャンパス〕

神奈川県小田原市城山1-2-25 ☎0465-21-6500

〔大川キャンパス〕

福岡県大川市櫻津137-1 ☎0944-89-2000

〔東京事務所〕出版広報室

東京都港区南青山1-24-1 ☎03-5775-2505

デザイン：iDept. 写真：大木茂、鳥村洋介ほか

編集：東京事務所出版広報室

お知らせ

IUHW Information

2007年度ドキュメンタリー映画上映館のご案内

恒例となりました、映画監督で本学客員教授の諏訪淳先生プロデューサーによる「ドキュメンタリー映画上映館」を今年も開催しています。すでに第3回までは上映済みですが、第4回以降の上映に多くの皆様のご来場をお待ちしています。

ドキュメンタリー映画上映館

上映時間：18時10分～19時30分、入場無料

●第4回 10月31日(水)——テーマ：「文化と生活」

作品：『ある機関助手』(監督：土本典昭)

『イカロスの夢—ライト兄弟からジャンボまで—』(監督：中西直人)

●第5回 11月28日(水)——テーマ：「動物の探求」

作品：『サンバ海を渡るタカ』(監督：岩崎雅典)

『クロウサギの鳥—奄美の希少動物たち—』(監督：岩崎雅典)

●第6回 12月12日(水)——テーマ：「伝統芸能の世界」

作品：『上方歌舞伎・和事の伝承』(監督：船津一)

『黙阿弥・人と作品—「鼠小僧」を中心に—』(監督：船津一)